

Domnung Pii SCHEC



NPO 法人 カンボジアの健康及び教育と地域を支援する会
〒160-0004 東京都新宿区四谷4丁目3番29号仲治ビル4階
Tel&Fax 03 (5368) 6387 http://www.schec.org

NPO 法人 SCHEC は
歯科診療活動や井戸
掘削事業、小学校の建
設事業の確認などの
為に年 2 回現地視察
を行っています。

**次回 3 月の視察分
の井戸寄附の締め
切りは 2 月 26 日
です。**

初の中学校と9校目の小学校が開校！

2007 年 11 月の現地活動として、シムリアップ州チクレン郡コックトロックル一地区に、SCHEC では初の中学校となる「コックトロックルー・サンキム中学校」が、ポンロールー地区に「プローン・サンキム小学校」の第2校舎が建設され、開校式典が行われました。

アンコールワットを抱える観光都市シムリアップから東に約 70km離れたチクレン郡。開発発展の波は届いておらず、貧しい農家が多く、就学率が 50%にも満たない地区も多数あるというこの地域では、子ども達は、小学校を卒業しても地元中学校が無いので、勉強をあきらめなくてはなりません。

この度、子ども達、村人にとって念願の「コックトロックルー・サンキム中学校」が、大分県議会議員梶原九州男さんの議員生活 20 周年の記念事業として建設されました。梶原県議と後援会の方々



が一丸となってご寄附を集めてくださった結果です。

この中学校には、同地区内の 5 つの小学校を卒業した生徒が通います。初年度の入学者は約 200 名、毎年ほぼ同数の生徒が通うことになるそうです。

11 月 22 日に行われた開校式典には、梶原九州男さん、後援会長の高村友樹さんをはじめ、大分より 12 名の方々をご参列下さいました。

翌 23 日には、同じチクレン郡のポンロールー地区にて「プローン・サンキム小学校・専修学院校舎」の開校式典が行われました。



この場所には、2005 年に杉戸中央ロータリークラブのご寄附によって校舎が建設されたのですが、それでもまだ教室が足りないということを知った、当時、同クラブ会長でいらした伊藤典男さんが、建設を約束し、ご自身の会社、専修グループとともに資金を提供して下さり開校されたものです。

現地の方々は、2 年前の伊藤さんのことを覚えていて、約束を守り、専修学院校舎を建設して下さったことに、とても感激している様子でした。



上) 文房具が配られ嬉しそうな子ども達
左) 式典の様子を教室から覗く



カンボジアの未来へ

大分県議会議員
梶原九州男



私と、カンボジアのつながりは、SCHEC 唯一の地方の理事である、大分の板山氏の紹介で、井戸掘りを始めたのが縁でありました。何本かの井戸を掘るうちに一度は訪問しなければ、と思っておりました。

今回私の議員活動 20 周年記念事業に、多くの有志の皆様のご支援を頂き、中学校を寄贈することになり、開校式に立ち合わせていただきました。

カンボジアのシアン・ナム国会議員をはじめ、地元関係者さらには子どもたちの心温まる歓迎を受け、私たちの活動が喜ばれ、役に立っていることを実感いたしました。

戦後の日本の復興は、戦後生まれのいわゆる「団塊の世代」の労働力による所が大きい

と思っております。カンボジアは今多くの子ども達を抱えております。この子ども達の働きが、カンボジアを復興させる原動力になることは間違いありません。その為に必要なことの一つとして、教育の充実があります。私たちにできることを些細なことでも実行していくことの大切さも痛感した次第です。

この度、中学校建設という思いがけなくも、私にとって一大事業を行うことが出来、関係者に心から感謝いたしております。

（株）専修 代表 玉川不二彦

「すごい！」

初めてのカンボジアは、驚きの連続であった。ホテルからまず国道を行ったのだが、私たちを乗せた 4WD はすごいスピードを出していた。同じ車線を行く地元のバイクは何人も乗せていて、さらに猛スピードで走る。すれ違う車やバイクも物凄い速度である。道沿いには、写真集で見たのどかな田園風景

景が広がっているはずなのに、それを確かめる余裕さえなかった。国道をそれて小学校へ向かう農道?も「でこぼこ道」などと表現できるような道ではなく、何 10 センチも深くえぐられた路面は性能が自慢の 4WD も抜け出せなくなるくらいの道だった。

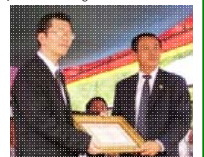
やっと小学校の式典会場に到着すると村の人々が、大勢で迎えて下さった。

どこにこんなに住んでいるのかと思う位の人数で皆さん、精一杯の歓迎をして下さった。

教室も見学した。

壁を緑色に塗っただけの黒板。板を組んだだけの机。

それでも生徒たちは皆熱心に先生の話を聞いていた。その姿はとても心打つものだった。世界中の子ども達が安心して勉強できる環境を作ることが我々の使命なのだと改めて感じさせられた。



充実の歯科診療活動

11月22日～25日の4日間にわたり、歯科グループの現地活動が行われました。今回の活動には、歯科医師、歯科衛生士、ボランティアの総勢43名がご参加くださり、約700名もの患者さんを診察することができ、充実した活動となりました。

22、23、24日の3日間は、チクレン郡の農村での活動でした。1週間前の大雨の為、道路事情がかなり悪く、配車の問題や予定時刻が大幅に遅れるなどの難しい事態もありましたが、炎天下での青空診療所で汗だくになりながら、歯科医師、歯科衛生士、案内・消毒係等のボランティア、通訳、皆さんが協力して手際よく多くの患者さんを診察しました。最終日はシムリアップ郊外での診療に加え、市内の病院見学も行いました。

診療と平行して、04年から継続して行っているバンテアイスレイ・サンキム小学



校での歯科検診も実施され、児童の口腔データが蓄積されつつあることは、今後の活動に役立つものと思われます。この度、建設されたコックトロックルー・サンキム中学校でも生徒の歯科検診を行い、この学校でも今後検診を継続していくこととなりました。



左) 発電機による動力を使っている治療。可能な範囲で保存治療にも取り組んでいます。

右) 赤坂庸子自治医大名誉教授の説明を熱心に聞く若手歯科医師達

風光る～～

11月の現地活動に参加くださった歯科医師岩田さんより感想をお寄せ戴きました。
『オークン(ありがとう)』

歯科医師 岩田知佐子
カンボジア…。まったく未知の世界。

治安は？
食事は？
でも、不安より、どんな国なんだろう？治療はどのように行うのか？



口腔内環境は？などの、好奇心の方が強く、行くなら今だ！と思い、活動に参加しました。

診療が始まってみると、話には聞いていましたが、マラリア、腸チフス、肝炎などの感染症の多さ、細くて長い日本人とは違う歯、むし歯の多さ、意外にゴールドの補綴物が入っている人が多い…など、様々なカルチャーショックを受けました。治療基準が、日本とは違う事に戸惑いつつ、抜歯中心でしたが、アイオノマー充填も多数行いました。

小学校の検診では、プラークコントロールの悪さに驚きました。やはり、予防から始めないと、治してもむし歯は増える一方。どんどん

ブラッシング習慣が浸透して欲しいと思います。でも一生懸命歯ブラシのやり方の話を聴き、無邪気に遊ぶ子ども達はとても可愛く、心が和みました。

ボランティア活動という事もあってか、参加されている皆さん、明るく親しみやすい方たちで楽しい時間が過ぎました。みんなで行った屋台、疲れが取れたマッサージ屋、値段交渉も楽しいオールドマーケット、2時間睡眠で見たアンコールワットでの素晴らしい朝日。思い出も沢山出来ました。

診療で得た事、活動を通して出会えた方々、カンボジアの人々の笑顔、すべてが、人生における財産になりました。やはり人から話を聞くのと、実際に体験するのでは、全く違います。思い切って、この活動に参加してよかったと心から思います。

今後カンボジアの歯科医療環境が向上していく事を願います。



初めての歯科診療を我慢したご褒美はゴム風船。みんながハイチーズ！

井戸掘削活動

2007年11月の活動では、ご寄附により合計71本の井戸を掘ることができました。主な掘削地域は学校建設地と同じチクレン郡の国道沿いの村々です。利



用世帯数は合計231世帯。1世帯あたりの人数が約7名ということですので、およそ1600名もの人達が安全な水を使うことができるようになりました。

典型的な農村地域で、働き手が必要なためか、子どもの数が多く、

「写真を撮るよ」と声をかけるとたくさんのお子さんが集まってきました。



子ども達には、皆様からお贈り戴いた歯ブラシやボールペン、手作りノートなど

を配りました。受け取る子ども達の嬉しそうなお顔がなんとも純粋で、こちらの胸がいっぱいになります。今回も温かいご協力をありがとうございました。

また今回、スピアントノート北村の人達によって井戸掘り感謝式典が行われたのには驚きました。

村長さんをはじめ多くの村人が、民家の庭にカラフルなテントを張り、国王の写真が飾られた祭壇まで用意して、私たちを出迎えてくれたのです。

それだけ待ち望んでいたという農村の人々の強い思いが伝わってきて、こ



の活動の意義を改めて感じました。

昨年はカンボジアを含め東南アジア一帯で、蚊を媒介にして伝染する「デング熱の流行」もありました。

きれいな水の出るポンプ付き井戸の必要性はまだ高い状況です。今後とも皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

次回の学校建設事業 八王子市の篤志家のご寄附により、会報第7号で紹介した深い森の中にある「プレイチカー小学校」に、新校舎が建設される運びとなりました。3月(予定)の開校式典の様子は次号にてご報告致します。

～事務局便り～

4年ぶりのアンコールワット見学。観光客の増加に驚きました。怖くて有名な第三回廊に登る石段には、保護の為、木の階段の取付け工事が行われていました。変わりゆく様子に寂しい気もしましたが、遺跡保全について考えさせられる出来事でした。

☆ 今後の予定 ☆

- 2008年3月28日～現地視察予定
- 井戸寄附締め切りは2月26日
- 2008年4月下旬 懇談会
- 2008年5月 新年度スタート
- 2008年6月下旬 総会